

2. 校区割を考える

校区割

審議会は、今後答申に向けて「学校数」「校区割」「学校位置」「通学方法」「開校時期」「学校選択制」等を議論していきます。

新学校を2校と仮定した場合、次に議論しやすい項目は「校区割」です。以下の基本条件や配慮事項を踏まえて、基本となる2つの通学校区の設定を考えていきます。

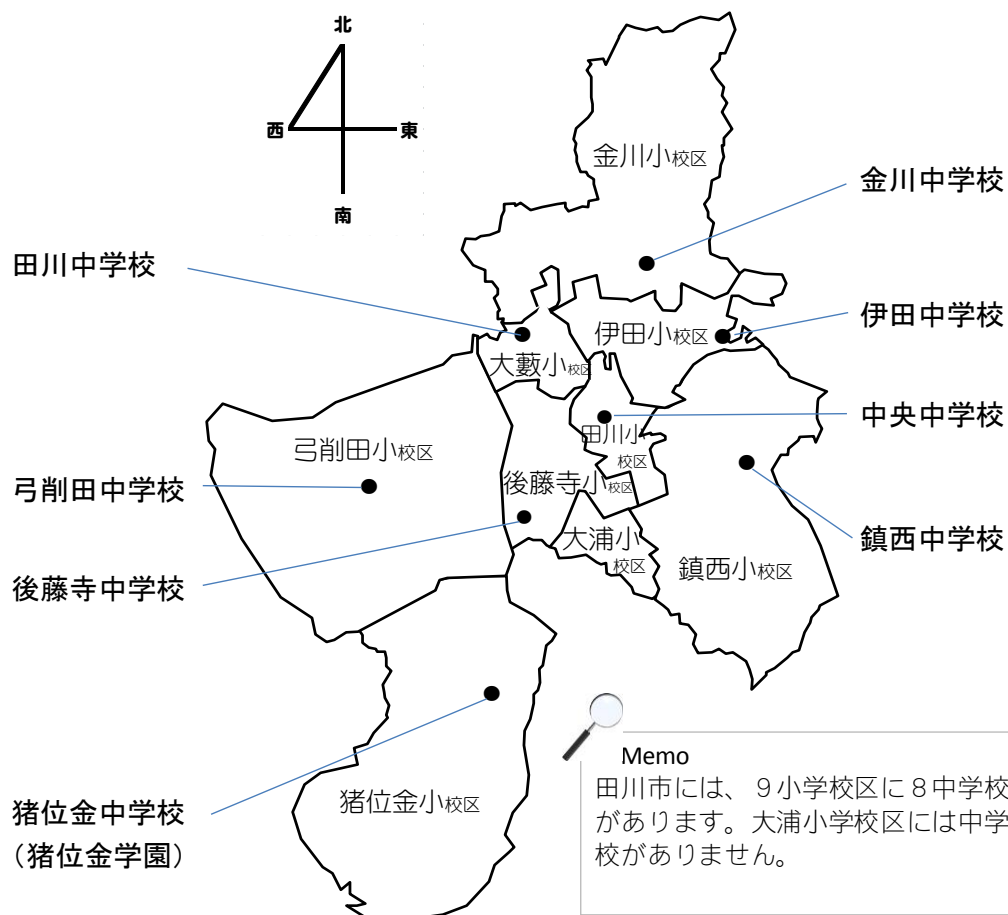
基本条件

中学校区の境界線は現小学校区の境界線に沿って設ける（校区は小学校区単位で分ける）

校区割設定での配慮事項

- ① 校区内の生徒数
- ② 通学距離
- ③ 校区ごとの地域性

小学校区境界線と中学校の位置



将来推計に用いる生徒数

校区割を考える際には、各校区の将来人口の推計が必要です。一方、全ての市内中学生が、市立中学校に通うわけではありません。従って、進学実態に即した生徒数の算出が必要です。

以下の表は、田川市の将来人口の推計です。国立社会保障・人口問題研究所がまとめた「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」から抜粋したものです。5歳刻みで5年ごとに推計値があります。この数値は、人口移動（転出入）の影響も含んだ数値です。

傾向を見てみます。2015年に0～4歳区分の人口（2011人）は、5年後の2020年には、5～9歳区分（2015人）に移行します。その5年後の2025年には、10～14歳区分（2014人）に移行します。この推移から、0～4歳区分の人口が、ほぼそのまま10～14歳人口に推移していることがわかります。その後の世代も同じ傾向です。

この傾向に沿えば、今から10年後の2025年（H37）の中学1～3年生人口は、現3～5歳の人口（住民基本台帳人口）が、そのまま移行すると考えられます。しかし2030年以降は、現時点で出生していないので、実数からは推計できません。従って、その後の推計は、2025年の10～14歳人口を基準とした5年ごとの減少率を、現3～5歳人口に反映させて推計します。

田川市の人口推計

年度 年齢区分	2015年 (H27)	2020年 (H32)	2025年 (H37)	2030年 (H42)	2035年 (H47)	2040年 (H52)
0～4歳	2,011	1,808	1,709	1,672	1,641	1,563
5～9歳	2,135	2,015	1,812	1,714	1,675	1,643
10～14歳	2,152	2,131	2,014	1,811	1,711	1,674
10～14歳の減少率(H2025年を基準)		[基準年度]	(10.1%)	(15.0%)	(16.9%)	

平成27年5月時点で小学校区別に集計した住民基本台帳人口

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	計
学年	-	-	-	-	-	-	-	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
猪位金小	2	20	17	18	18	15	11	24	17	21	22	24	15	22	22	14	282
弓削田小	9	75	56	62	74	79	65	72	78	85	62	79	66	84	69	75	1,090
後藤寺小	5	47	37	33	37	39	48	29	55	40	39	36	44	45	56	52	642
大浦小	7	28	23	32	43	35	33	42	29	37	27	38	32	34	26	36	502
大藪小	9	50	46	41	48	47	47	46	51	54	52	64	64	49	56	61	785
田川小	2	46	36	42	39	46	43	33	30	36	36	28	37	37	33	32	556
鎮西小	14	81	81	71	93	69	82	75	98	64	86	83	70	65	61	77	1,170
伊田小	8	55	47	54	41	52	50	59	65	40	49	54	46	57	58	67	802
金川小	6	53	54	51	47	61	59	65	71	58	51	43	53	57	46	51	826
計	62	455	397	404	440	443	438	445	494	435	424	449	427	450	427	465	6,655
				2025年度(H37) の中学生世代			2020年度(H32) の中学生世代			2015年度(H27) の中学生世代							

2030年度以降はこの世代の人口に減少率をかけて算出

中学生人口（住民基本台帳人口）を基に、進学実態に即した生徒数を算出します。まず、各校区の中学生人口と、実際に市内中学校に通っている人数から、校区ごとに市内中学校への「進学率」を算出します。

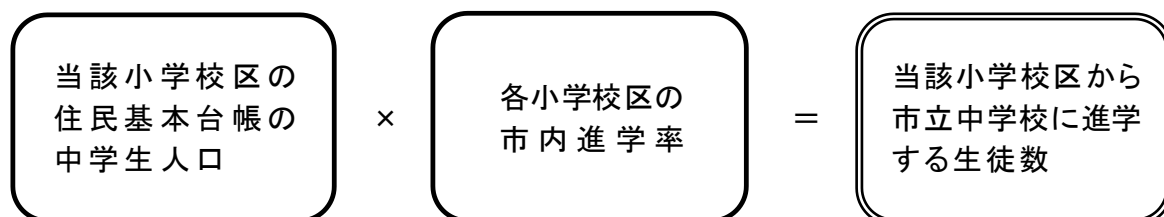
[平成27年5月時点]

小学校区	住民基本台帳の市内中学生人口[1~3年] (A)	(A)のうち市内中学校に通学する人数及び人口に占める割合 (B)	市内中学校に市外から通学する人数及び人口に対する割合 (C)	市内中学校に通学する人数と人口に対する割合 (B)+(C) …市内進学率
猪位金小	58人	51人 (87.9%)	13人 (22.4%)	64人 (110.3%)
弓削田小	228人	198人 (86.8%)	6人 (2.6%)	204人 (89.5%)
後藤寺小	153人	122人 (79.7%)	4人 (2.6%)	126人 (82.4%)
大浦小	96人	89人 (92.7%)	3人 (3.1%)	92人 (95.8%)
大藪小	166人	140人 (84.3%)	1人 (0.6%)	141人 (84.9%)
田川小	102人	93人 (91.2%)	3人 (2.9%)	96人 (94.1%)
鎮西小	203人	179人 (88.2%)	6人 (3.0%)	185人 (91.1%)
伊田小	182人	155人 (85.2%)	9人 (4.9%)	164人 (90.1%)
金川小	154人	138人 (89.6%)	2人 (1.3%)	140人 (90.9%)
計	1,342人	1,165人 (86.8%)	47人 (3.5%)	1,212人 (90.3%)

※(C)の人数は、当該中学校に接続する小学校でカウントしている。猪位金中に通う生徒なら猪位金小学校区でカウント。

後藤寺中に通う生徒なら後藤寺小学校区と大浦小学校区で人口按分してカウント。

将来推計に用いる生徒数は、以下の式で算出します。



各小学校区の5年ごとの生徒数の推移

小学校区	(5年後)			(10年後)			(15年後)			(20年後)			(25年後)				
	2020(H32)	2025(H37)	2030(H42)	2035(H47)	2040(H52)	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中1	中2	中3
猪位金小	19	23	24	20	20	17	18	18	15	17	17	14	16	16	14		
弓削田小	70	76	55	55	66	71	50	60	64	47	56	60	46	55	59		
後藤寺小	45	33	32	27	30	32	24	27	29	23	26	27	23	25	27		
大浦小	28	35	26	31	41	34	28	37	30	26	35	29	25	34	28		
大藪小	43	46	44	35	41	40	31	37	36	30	35	34	29	34	33		
田川小	28	34	34	40	37	43	36	33	39	34	31	37	33	30	36		
鎮西小	89	58	78	65	85	63	58	76	57	55	72	53	54	70	52		
伊田小	59	36	44	49	37	47	44	33	42	41	31	40	40	31	39		
金川小	65	53	46	46	43	55	42	38	50	39	36	47	39	36	46		
小計	446	394	383	368	400	402	331	359	362	312	339	341	305	331	334		
総計	1,223			1,170			1,052			992			970				

1. 校区割を考える